

1. 評価結果概要表

作成日 2007年8月3日

【評価実施概要】

事業所番号	0870301264
法人名	有限会社 久保田電気
事業所名	グループホーム 土浦マロン館
所在地 (電話番号)	茨城県土浦市菅谷町1358-1 (電話)029-831-7086

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成19年8月1日	評価確定日	平成20年1月9日

【情報提供票より】(平成19年7月3日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 4 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階 建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4)利用者の概要

利用者人数	15 名	男性	4 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 82 歳	最低	47 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	神立病院 ・ 川島医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは果物畑に囲まれた自然豊かな場所に位置している。ホームの造りも広々としており利用者や職員が共に、ゆっくりと過ごせる空間となっている。職員は、利用者の個性を尊重しながらのケア提供を心掛け、利用者も優しげな表情が多く見られる。地域の方は開設当初よりホームに対する理解は深く、交流も頻繁に行なわれている。今後も、行政や家族との連携も図りながらサービス向上に期待したいホームである。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の表現方法の工夫や、危険物・薬品の管理方法について取り組み、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が中心となり、リーダーの職員と共に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームはどのようなところなのかを理解してもらうために、見学も含めホームの概要を説明している。今後、会を重ねるごとに活発な意見交換の場となるように取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会の立ち上げと共に、普段から生活状況の報告を行なっている。行政の苦情受付窓口の説明も行なわれている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアグループの受け入れ、イベントへの参加や地域住人の方が自宅で取れた野菜を届けてくれたりと、日常的に地域の方との関わりが持っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の調査結果を受けて「愛、自由、楽しく」という地域住民や家族にも理解しやすい理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が日々の業務の中でケアの提供を考える時、いつでも利用者・家族を考えたケアが行なえるよう、理念の振り返りを行なっている。		今後も、新しい理念の全職員での共有と、それを踏まえたケア提供を継続される事に期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム開設時より地域住民のホームへの理解は深い。小学校との交流やホームのバーベキューなどに近隣の方が参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果について積極的に取り組み、改善している。	○	自己評価を全職員で行なう事で、現在のサービスの自己点検を行い、より統一したケア提供が行なわれるよう期待する。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政担当者、地域住民、利用者やその家族が会議のメンバーとなっている。ホームの運営などに対する意見聴取の場として取り組んでいる。		

茨城県 グループホーム土浦マロン館

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは市介護保険課を中心に連絡を密に取るよう取り組み、指導なども仰いでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の利用明細の送付に合わせ、生活状況を伝える手紙を同封している。また、状況の変化があったときには、電話等で報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、家族会が年1回以上開催され、意見や要望を聴く機会を設けている。総会も行なわれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が不安を感じないよう、系列ホームへの移動にも配慮している。新職員にも利用者の情報を把握しやすいよう、ベテランの職員と組んで業務に当たっている。		今後も利用者が安心して生活できるように、現在の取り組みが継続される事に期待したい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修参加や資格取得できるよう管理者から呼びかけている。外部研修の報告は職員会議で報告し、全職員で共有できるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホーム協議会の設立に向けて現在活動を行なっている。職員同士の交流なども行なって行きたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族が納得して入居となるように、他の事業所の見学も行い比較検討するよう進めている。また、体験入居は設けていないが退居の制限も無く、自由に利用できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は昔ながらの行事や習慣を学びながら、利用者からの言葉かけや笑顔をもらうことで職員が支えられるような関係が作られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から利用者の言動・行動を把握し、更に言葉かけを行なう事で本人の意向や思いの把握に努めている。	○	今までの生活歴や、聴き取りで得られた情報を整理し、意向の把握に役立てるためにもアセスメントシートの整備が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	それぞれの計画立案に担当となった職員と管理者が話し合いを頻繁に持ちながら計画を作成している。	○	職員間の話し合いに加え本人・家族の意見も取り入れ、利用者の個性が反映された計画立案が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員会議の際に、利用者一人ひとりの状況の変化について話し合う機会を設け、計画の見直しを行なっている。	○	モニタリングシートや経過記録などの整備をすることで、介護計画の評価や定期的な見直しに活用していく事が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に代わって通院の援助を行ったり、状態が落ち着かない利用者に対し配偶者と一緒に過ごせる環境設定をしており、非常に柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応可能な協力病院との連携を図ると共に、昔から通いなれた医療機関への通院も支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りも、医療機関との連携を図りながら本人・家族からの要望があれば基本的に行なう方向で進めている。		全職員での話し合いを持ち、ホームとしての方針を決定する事により、受け入れ態勢が強化され、より安心できるケア提供がされると思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導などの言葉かけはさり気なく、周囲に気づかれないよう配慮している。	○	個人情報の一部使用について利用者・家族に説明し、同意を得る事が望ましい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内に特に決まりごとはなく、利用者は自分のペースを大切にされた自由な日々を送っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員のサポートを受けながら準備や片付けなど、出来る力を活かせるよう配慮されている。献立も季節のものや利用者の希望を取り入れている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の好きな時間やペースで入浴できるよう支援している。体調不良などで入浴できない場合は清拭を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの個性や好みを活かした役割作りや気晴らしの支援がされている。		利用者それぞれのできること・できないことを把握し、できるだけ多くの利用者が何らかの役割を持ちながら生活できるような支援が期待される。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の直売所やスーパーなどに買い物に出掛けたり、外食会も行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は掛かっておらず、職員の見守りの中、自由に戸外へ出る事ができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回以上、消防署の指導を受けながら訓練を行なっている。	○	地域住民や公共施設と協力・連携しながらの防災訓練や、非常食や応急処置の物品の整備などの取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の制限がある利用者に対しての配慮もされている。	○	毎日の摂取カロリーや水分摂取量の把握と共に、献立の指導を受ける事で、利用者の健康状態の維持につながる事を期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたホールにはいつでも寛げるようにソファが置かれるなど、家庭的な環境になるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にできるだけ多くの日用品や、大切にしてきたものを持ち込んでもらえるように家族にも働きかけている。		